

## 終業式を迎えて

認定こども園辻ヶ丘幼稚園 永井三亮 2018/07/20

今年度も無事一学期の終業式が迎えられたことを嬉しく思います。

**ゆき組さんは**、先生との愛着関係ができ、安定した生活が送れるようになり、泣くことが少なくなったと言います。個々にはハイハイに近いことができるようになったり、歩けるようになったり、食への興味や友達への関心が出てきたり、人見知りも強くなったりと大きな成長ぶりです。



**つき組さんは**、遊びの幅が広がってきました。友達が存在が大きくなり、関わろうとしたり、何かを伝えようとしたりするようになりました。しかし、会話が十分できずトラブルも多いと聞きます。互いに刺激し合いまねるようになりました。そして、自分でしようとするが増えてきたとのこと。

**そら組さんは**、友達とのかかわりが増えてきました。個々に応じた先生たちの意図的な声かけや対応の仕方によりトレイレーニングが早いペースで進んでいるように思われます。教師の試技や問いかけに感動し(わー、きれい、してみたい)、行動に移せることが多くなってきました。グループで協同作業らしいこともできるようになってきたと言います。



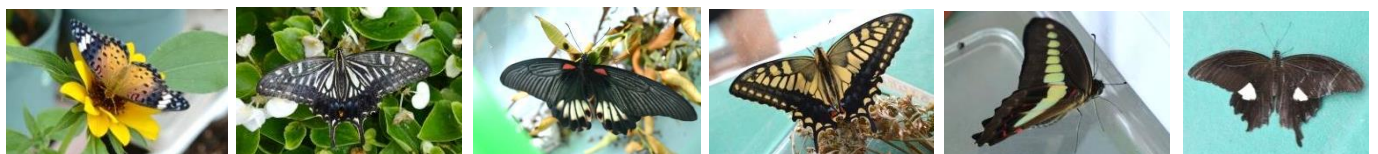
**はな組さんは**、4月当初1クラス編成で人数が多く、新入園児も多いということで不安そうな表情が多く見られましたが、すぐに楽しい雰囲気になり、学級としての形が整ってきました。それぞれが自分でできることが増え、その都度、達成感や自己肯定感を感じながら「もっともっと」と気持ちを広げています。また困っている子に気づき、助けようとしたり、先生に伝えたりすることが増えてきたと言います。



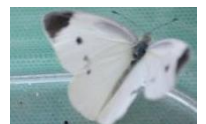
**にじ・ゆめ組さんは**、「なに・なぜ・どうして」などと、興味関心が特に強く行動的になってきました。そして、みんなでしようと声を掛け合う姿や相手の気持ちを考えられるようにもなり、トラブルが減ってきました。と、先生たちが想定している以上の心身の成長が見られています。

**ひかり・つばさ組さんは**、そら組の子どもたちの面倒をよく見てくれます。最初は、ランドセルを棚に入れるなどのお手伝いだったのが、最近では、困っていたら、手伝うというように「見守る姿」に変わってきました。感謝しながらも驚いています。と、2歳児担当の先生から報告を受け、教育という視点で0歳から5歳児までの教育・保育を一体的に行う教育活動が連続的に繋がりはじめていることに嬉しく思うことです。

また、今年度は、自然に対する関心がとても高くなっているように思われます。例年になく放蝶の回数が多くみられ、ツマグロヒョウモン、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、モンシロチョウ



ウなど種類も多かったです。チョウやガの飼育は、まだ続いています。今はクワガタやカブトムシなどにも広がりを見せています。



7月17日には、ハギの枝に羽化直後のクマゼミを見つけてくれた子どもたちのお陰で大いに盛り上がっていました。変身の進捗状況が気になり、たくさんの子どもが何回も何回も見に行く姿がありました。





左は、クマゼミの抜け殻にぶら下がり、飛ぶための変身をしている最中の写真です。

興奮気味の子どもたちの会話が聞こえてきませんか？



去りがたい？ ツマガヒョウゲン



去りがたい？ ナミアゲハ



別れを惜しむ！ 元気でね！

左は、教室で育てたチョウを自然に帰す放蝶の様子です。園庭で幾度となく繰り広げられた感動のシーンです。

子どもたちの鋭い観察眼にはいつもながら驚かされています。名前や餌は何かなど、目をキラキラさせながら問う姿、図鑑やインターネットでの調べ方でないと納得しない子も多くいたりして、学ばされることが多い昨今です。

そして、自然に興味関心を持つだけではありません。自然への興味がいろいろ広がっていきます。



5・4・3・2・1・0・発射！ インターネットのライブ放送から流れるアナウンスに合わせてカウントダウンをしながら、ロケットの打ち上げの場面を共有できました。ロケットの飛ぶ軌跡にみんな興奮しました。「園庭から見えるんですねー！」と、誕生会当日でたまたま居合わせた誕生児のお母さんの声です。

白く囲んだ所がロケットの軌跡 (2018.6.12 13:20 H2A-39号機)

子どもたちの自然への興味関心は、高まりつつありますので、この夏さらに高まるのではないかと考えています。芋虫(蝶や蛾など昆虫の幼虫)など虫が苦手な方もいらっしゃると思いますが、「苦手だからダメ」ではなく、苦手なことを伝えながらも子どもの心の中で何かが起きている、起き始めていると思って戴き、可能な限り温かく見守ってほしいと思います。とは言っても、衛生上好ましくないものや刺されたり、カブレを起こしたりする要注意な昆虫もいますので、触った後は手を洗うことや毛の多い幼虫には触らないなど注意しながら、子どもたちの好奇心に付き合っただけいたらと思っています。

7月7日の学級PTAで触れましたように「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され、30年度からそれに基づいた教育・保育を実施するようになりました。幼児期から育てたい資質能力として「三つの柱」(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、より具体的な「10の姿」が示され、本園では、昨年からは、そのような考え方や視点で実践してきているところです。

これまで、質の高い保育活動を目指す為、「自然との関わり・生命尊重」に視点を当て、「園庭の環境について考える」の研究テーマで本園の子どもたちの姿を見てきました。その実践研究の一端を「第57回鹿児島県私立幼稚園教職員研修大会」(7月24日指宿市民会館)で4回目のポスター発表をすることにしています。

また、先生たちは、この夏も指導力を高めるために県内外の出張研修に出向き、自らに磨きをかけます。きっと二学期からの教育活動に反映されることでしょう。



(ポスター発表の内容を深め合う先生たち)

多くの子どもたちは、明日から夏休みです。年長さんは、楽しみにしているお泊り保育(24・25日)があります。

この夏、山や海などの行楽地等へお出かけの際は、思いがけない危険が潜んでいることがあります。安全には十分ご注意ください。また、お盆など伝統的な行事やかねて出来ないことなど家族の絆が深まるいい夏になればいいなと思うことです。

しかし、今年の暑さは異常です。熱中症に最大限の注意をしながら元気に過ごし、9月3日(月)には、全員元気な姿で二学期が迎えらることを願っています。